

---

# Et Voilà!

2018年10月19日号 (第2号)

---

## 【ひとりでできることはやっていただく】

前回、来年度からの送迎について、お受けできかねる場合のあるということをお知らせしました。

その理由として、人手が少ない中、グループホーム、タイムケア等の事業に支障がないようにしたいということ、そして、ひとりでできることは一人でやっていただきたいということがあります。

ひとりでできることはひとりでやるというのは、療育でも学校教育でも、あたりまえに教えられていることですし、障害のあるなしにかかわらず、子どもたちの自立のためには、必要なことだと思います。当事業所でも、その方向で支援していききたいということです。

言いかえると、必要もないところに人手をかけたくないということでもあります。

通学はもちろん、スクールバスから放課後等デイ、放課後等デイから自宅など、学年が上がるにつれてできることが増えてきます。

実際、すでに先に行かせても、問題なく進んでくれる人が何人かいます。そのような場合、一人でやることにするかどうかは、あとは親御さんが決断するだけです。

以前、あるグループホームから作業所まで、都電にも乗って通うのに付き添ったことがあります。ひと月もしないうちにひとりで通えそうだと考え、50メートルほど後をつけるようにしたのですが、何もしなくても、その子は問題なく作業所まで通っていました。

しかし、関係者間の話し合いの中で、ときどき他の人の後について赤信号でわたってしてしまうこともある、後ろから来る自動車に注意していないなど事故が心配だと意見が出たり、リスクがあるなら誰かに付き添ってほしいという親御さんの意見もありました。

そのような心配もわからないではありませんが、そんなことをいっていたら、誰だって、事故にある危険はありますし、一般の子どもでもそうですし、私だって、後ろから来る車に轢かれる可能性

はないとはいえません。誰だって生きていて、けがや事故のリスクを0にすることはできません。だからといって、常に他人に安全を見てもらうということもできません。どこかで割り切らなければならないのです。

いまうちの利用者さんでも自分でできることはやってもらっています。

翼くんは、希望の家から事務所はひとりで行けます（おぐのあかりへもひとりで行けます）。ヘルパーが先に歩いてその後を歩くときは、ちんたら歩いていますが、先に歩かせると、いきいきとして歩みが速くなります。

事務所に入ると、まずインスタントコーヒーのスティックをとり（翼くん用に買ってある）、台所に行つてカップに入れ、ポットからお湯を注ぎ、かき混ぜるまで全部自分でやっています。手を貸そうとすると嫌がります。

庸介くんや正朗くんなどは、自販機でコーヒーや炭酸飲料を自分でお金を入れ、品物を取り出し、おつりを取っています。時間はかかりますが、ちゃんとできています。

自分の好きなことは、みなけっこうできるものです。できるのに干渉されたり監督されるのはおもしろくないものです。ひとりでやっているときの子どもたちの表情は、自信に満ち、満足そうです。心配だからということ、親やヘルパーがその機会を奪っているのでしょうか。

ときには失敗することもあるでしょう。しかし、失敗するのも大切な経験です（もちろん命をなくすというような失敗は別です）。

ただヘルパーをつけるというのではなく、自立につながることを支援するのが本来の制度のあり方です。

ひとりでできる人にはひとりでやってもらい、お金も人材も、ほんとうに必要な人に振り向けるようにしなければ、困っている人は困ったままの状態におかれてしまいます。

問題はどこで必要か必要でないかを判断するかです。それは、本人や家族、事業所、相談員、行政などで話し合っただけで決めるしかないのですが、そのときの判断の基準は、本人の自立につながるか、

自信や喜びにつながるかです。私たち職員も、その方向で支援できたら、仕事のやりがいにつながり、とてもいいと思います。

\*\*\*\*\*

## 【書評「居酒屋チェーン戦国史」(仲村芳平著、イースト新書)】

居酒屋なんて久しくいっていないなあ。最近はお酒飲みというか事務所飲みがほとんどで、仕事が終わったあと、本を読んだり、原稿を書いたり、あるいはぼんやり音楽や映画の動画を観ながら飲んでます。

20代~30代のころは、お金もないので、友だちや会社の同僚などとチェーン店の居酒屋に行っていました。年をとると、騒がしいのが苦痛になってきて、ひとりで飲むことが多くなって来ました。

繁華街に出れば、居酒屋の看板が目立ち、ビジネスとしては気になります。

外食産業は競争が激しい世界ですが、成功すれば大儲けできる業種でもあり(障害者支援の業種とはだいぶちがいますね)、学歴はなくても、やる気と根性のある若者が成功を夢見ることのできる世界です。ひとつふたつの店舗ではそれほどなくても、店舗数が多くなるにつれ、仕入れ値を安く抑えられるなど、スケールメリットを享受し、大儲けができます。

この本には、60年代の居酒屋チェーン店の創生期から、バブル崩壊後の90年代、そして、現在と、居酒屋チェーン店の盛衰を描いたもので、とくに、創業者にスポットをあてています。「養老の滝」の木下藤吉郎さん(本名ではありません)、「天狗」

の飯田さん、「村さ来」清宮さん、「つば八」の石井さん、「和民」の渡辺さん、「鳥貴族」の大倉さんなど、何百あるいは千を超えるチェーン店を築いた方たちの努力や創意工夫には圧倒させられます。

居酒屋チェーンから介護事業や教育事業にも進出した「ワタミ」は、従業員の過労自殺を期に、世間の批判が集中、業績は悪化、介護事業も手放さなくてはならなくなりました。社内研修では(ワタミは人材育成に力を入れているそうです)、「365日24時間働け」などということばもあったそうです。渡辺さんとしては、本気になって、全力で、命がけで働かないと、成功できないと伝えたかったのでしょう。

渡辺さんにしても、他の居酒屋チェーンの創業者、そしてどんな業種にしても、成功する人はそれくらいの気持ちで働いています。

ただ、それを起業を夢見る人、将来社長になりたいと考えている人に言うのならともかく、一般の社員に言うのは、かなり無茶ですが。

それはそうとして、この本には、やる気と根性と知恵を絞って居酒屋チェーンを築いていった人たちの生き様が描かれていて、居酒屋が好きな人、起業に関心のある人にはお勧めです。

\*\*\*\*\*

## グループホーム3号館開設に向けて 介護スタッフ大募集!!

正社員 月給:22万~30万円以上  
時給:1000円~1300円  
1夜勤19,000円~(16:00~翌10:00)  
社会保険完備 交通費(自転車を含む)支給

身体介護、家事援助、外出支援、通院支援、送迎  
障害児タイムケア(障害のある子どもたちのお世話と遊び相手)  
グループホーム(早朝、日中、夜間、宿泊勤務)

**土日出勤、夜勤のできる人、大歓迎**

\*\*\*\*\*

発行・編集:川口仁志